



ふるさとバス ぜひ活用を

デマンドバスの愛称に応募し入賞されました皆さん、おめでとうございます。

現在、本市では、「元気で楽しい前橋」を実現すべく、市民の皆さんが健康で生き生きと暮らせる社会を築いていこうと「生命都市いきいき前橋」構想を将来都市像に掲げ、全力で取り組んでいます。そのためには、活力あふれる地域づくりが大変重要であり、大胡・宮城・粕川地区の皆さんに、より利用しやすい公共交通を整備し、生活の向上につなげていただきたいと、このデマンドバスを企画しました。

1月から本格運行することから、市民の皆さんに愛され親しまれるよう愛称を募集したところ180点もの応募をいただきました。いずれも、素晴らしい作品ばかりで、審査が大変だったと聞いています。とりわけ、皆さんの作品は、デマンドバスに寄せる愛着が込められているとともに、親しみやすいものでした。

今後は、「ふるさとバス」の愛称で、多くの皆さんに愛され、積極的に活用されることを願っています。
(デマンドバス愛称表彰式、12月22日、市役所)

ふれあい広場

まえばし シティフラッシュ



第五十九回成人祝が一月七日に、県民会館で開かれました。高木市長からお祝いの言葉が贈られた後、新成人自らが企画した「はたちのつどい」では、ダンスや抽選会で楽しいひとときを。みんなで大人のスタートを祝いました。

二十歳の門出盛大に祝う



消防隊の出初め式

1月7日、県庁前通りで出初め式が行われました。参加した消防隊員など1,000人が姿勢服装点検を受け士気を高揚。また、雨の交じった強風が吹く中はしご乗りの妙技が次々に披露されると、集まった観衆から拍手が送られました。

初市で露店ずらり

恒例の初市まつりが1月9日、本町通りなどで開催されました。古だるま供養や渡御行列のほか、会場にはだるまなどの露店がずらり。売り子の威勢のいい掛け声が響く中、一年の福を求める多くの人たちでにぎわいました。



文化祭開き 成果を発表

南橋地区

一月六日から八日までの三日間、町民文化祭が川原町公民館で開催されました。今年で六回目。絵画や工芸品、盆栽など、住民が日ごろの活動成果を展示しました。
七日には、農産物フリーマーケットと紙芝居も合同開催。多くの人に足を運んでもらうため、初めての試みです。催しを楽しみながら作品鑑賞ができ、会場は大にぎわい。
永井俊生自治会長は「文化祭は成果を発表する場。皆さんに見てもらえれば励みになります。さらに工夫したいですね」と話していました。



もちつき通じ 三世代が交流

本庁管内



日吉町三丁目公民館で一月七日、三世代もちつき大会が行われました。三世代の交流を深め、地域づくりに役立てようと毎年この時期に実施。参加した子どもたちは、おじいちゃんやおばあちゃん、両親の手ほどきを受けながら、重いきねを力強く振り下ろします。三十きのもちが出来上がると、みんなであんこやきな粉を付けておいしく食べました。
荻野恒男自治会長は「今後も伝統行事を大切に、三世代の交流を深めていきたいですね」と話していました。



和裁で「現代の名工」に
川岸 美枝子さん(45)
朝日町一丁目

本年度の「現代の名工」に選ばれ、ほかの県内表彰者三人と県庁へ報告に訪れた。厚

ひしひしと重い責任感じる

の道二十七年間、働いています。これも多くの人に支えていただいたおかげ。表彰を受け、ますますきちんとした仕事をしなくてはと、重責をひしひし感じています。
高校卒業後、都内の和裁訓練所・養成所で六年間修行した。平成元年に一級技能士を取得し、その後、江木町で和裁研究所を開設。平成五年には四年連続出場していた「技能グランプリ」で、全国一位に輝いた実力の持ち主だ。
「手首のスナップをはずに、両腕のひじから先を振り下ろす運針で、作業の軽減と

時間短縮を図りながら、仕上がり向上を実現しています。また、病院でリハビリとしての運針作業を指導しています。が、療養効果も認められ好評を得ているんです。
和服のリフォームにも取り組み、伝統を守りながら和裁の研究を重ねている。
「一枚でも多く一針一針、心を込めて縫うことで技術の精進に励んでいます。着物には日本が誇る民族衣装。着てみれば洋服とは違った、新たな自分を発見できますよ」
伝統を次世代へ伝えようと、若き名工は努力を惜しまない。